

かいぼり瓦版

8月



かいぼり期間中に造成した浅場。4月には移植したガマしか見られなかったが、その後さまざまな水生植物が発芽した。



水が透きとおる、池底の藻類や発芽した水草がよく見える（5月）



モニタリング調査の様子



モツゴの稚魚



4月

すぞいぞ、大池!

かいぼりで水草発芽 カイツブリも初繁殖

2020年春、かいぼりが終わった上尾丸山公園の大池に、3ヶ月ぶりに広い水面が戻った。春から夏にかけての大池では、水質や在来種、水草などにさまざまなかいぼりの効果が確認された。

池底くっきり! 感激の透明感

池に水を戻した4月当初は褐色に濁っていた池水も、5月になると落ちてきて、池底がくっきり見えるほど透明になった。池底からガマやヒシなどの水草が生え、小魚が泳ぐ様子もはっきり見えた。かいぼりをする前には考えられなかった光景だ。

しかし、池底まで光が届くようになったためにアオミドロの仲間が増殖し始め、水面を覆い始めた。かいぼり前の濁っていたときには見られなかった現象なので心配する声もあったが、梅雨の間の日照不足や池外へ流れたりして終息した。その後、8月には猛暑と少雨により植物プランクトンが増加。9月現在、池底まで見通すことはできないが、秋が深まるにつれて水温が低下し、植物プランクトンが減少して透明度が回復すると期待される。

在来魚の稚魚を確認

かいぼりで捕れた在来種の魚とエビは、菖蒲田近くにあるアヒル池をいけす代わりして保護していた。かいぼり後、これらの魚たちは、水路伝いに自力で大池に戻ってきている。

市民ボランティア「あけのすずべり上尾水辺守」による水生生物のモニタリング調査では、かいぼり後の大池でモツゴ、ギンブナ、テナガエビなど6種類の繁殖が確認されている。一方、外来魚は、菖蒲田近くの睡蓮池などに生息していたカダヤシが大池でも見つかった。これまでのところ、コイ（飼育型）などの大型の外来魚は確認されていない。

カイツブリの親子現る!

カイツブリは潜水して魚などを捕らえる小型の水鳥で、在来種の魚やエビが豊富に棲む池や沼に生息する。大池では、ときおり飛来することはあっても短期間で去ってしまうのが常であったが、親子でいる様子が6月に確認された。カイツブリの親子は、1978年の開園以来、記録されたことがなく、初めての確認だと思われる。

カイツブリが繁殖するためには、ヒナの成長を支えるだけの食料量が必要だけでなく、ヒナの成長段階に合わせてさまざまな種類やサイズの食物を得なければならぬ。
(裏面へ続く)

かいぼりをきっかけに、大池に豊かな自然がよみがえろうとしています。
この自然を育てていくために、かいぼり後の公園利用のルールを提唱しています。引き続き大池の自然を見守ってください！

かいぼり後の公園利用ルール

- 魚釣りや生物の持ち込み、持ち出しはご遠慮ください
- 野鳥などの生物にエサをやらない
- 植物を採取しない

まな水生植物が発芽した。生育場所が創出されたこと
によって、かいぼり前には見られなかった植物が再生している。



ショウジョウトンボ



浅場で発芽したヒシ

木枠の内側に大池の泥を盛って土台とし、さらに早期に環境を整える目的で未開園地の湿地からガマなどの抽水植物を移植した。
かいぼり後は、移植したガマやフトイが定着したほか、土に含まれていた種子からコナギ、ヒシなどのさまざま

大池に豊かな自然を回復させる目的で、かいぼり期間中に浅場整備が行われた。これは、岸から急に深くなっている大池に岸辺に、水深の浅い環境を創り、水生植物やトンボ、稚魚などの生息環境を創る取組である。

トンボや水草でにぎわう浅場

かいぼりでは在来魚の仔稚魚を捕食するブルーギルなどの外来魚が駆除されたことにより、カイツブリの食物事情がよくなったと推察される。8月には11羽の群れも確認された。カイツブリが大池に定着していきけるように生息環境を保ってきたい。



確認されたカイツブリの親子

大池の自然情報を発信しています！

大池自然再生日記

上尾市 大池

検索



<https://www.city.ageo.lg.jp/page/046120042001.html>

日時

10月10日(土)、11日(日)、25日(日)
11月8日(日)、11月29日(日)
いずれも 13:30~14:30

園内ポスターもチェックしてね

みんなで水辺守
アメリカザリガニ駆除編

対象：3才以上 (小学生以下は保護者と一緒に参加)
定員：当日先着 40名 (事前申込不要)
※10名以上のグループは事前にお申し込みください
受付：上尾市自然学習館 15分前より受付開始
参加費：1人30円 (保険代)
※雨天実施
持ち物：泥汚れしても良い服と靴、軍手またはゴム手袋
手や顔をふくための手ぬぐいタオル、マスク
帽子・飲み物などの熱中症対策グッズ



めざせ！大池再生

みずべもり通信

自然再生を目指す大池には、かいぼりでは対処できない課題もある。そのひとつが、外来種のアメリカザリガニ対策だ。池の水を抜くと泥の中へ逃げ込んでしまいうから、水がある時期にワナを仕掛けて捕まえる。こうした活動を、市民に協力してもらいながらいっばいやろう！という企画『みんな水辺守』が始まった。
池に仕掛けてあるワナを、上尾水辺守と参加者が一緒に中身をチェック。捕れた生きものの種類と数を記録していく。
アメリカザリガニが捕れたら回収だ。在来種のテナガエビやドジョウも見つかり、歓声が上がると。数を数えるためにおそろおそろ生きものに触る体験が新鮮だ。外来種による影響をよく勉強している子どももいて頼もしい。
アメリカザリガニは、水草や水生昆虫に大きなダメージをおよぼすことから緊急対策外来種に選ばれている。大池での対策は始まったばかりだ。市民の協力や賛同を広げ、豊かな水辺を再生していきたい。



上尾水辺守と一緒にワナあげ！